

『JVA 2018 年年間統計調査結果』について

当協会は、3月13日(水)午前11時00分から、協会会議室において『JVA 2018 年年間統計調査結果』についての記者発表会を開催しました。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して2018年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、本調査の結果は『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.87』として冊子にまとめ、一般の方にも有料にて頒布しております。

本件のお問い合わせにつきましては、広報課倉橋(03-3542-4433)まで、または、協会ホームページの「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以 上

2018年(1月～12月)の実績について

1. 2018年のビデオソフトの総売上は1780億8400万円で前年比94.9%となった。上半期は858億8800万円で前年同期比93.7%、下半期が921億9600万円で前年同期比96.1%だった。

ビデオソフトの総売上金額をメディア別に見てみると、DVDビデオが922億5400万円で前年比92.7%、ブルーレイ(Ultra HDブルーレイを含む。以下同様)は858億3000万円で前年比97.3%だった。DVDビデオの売上が減少していることにより、ブルーレイの構成比は48.2%と過半に近づいてきている。 <添付資料 表1>

2. ビデオソフト全体の売上金額を流通チャネル別の構成で見ると、販売用、特殊ルート、レンタル店用、業務用の割合は、79.7対0.3対19.6対0.4となり、レンタル店用の割合が減少し、販売用の割合が大きくなる傾向が続いている。 <添付資料 表4>

3. 販売用全体(DVDビデオとブルーレイの合計)の売上金額は1419億4000万円で、前年比99.7%とほぼ前年並みとなった(※なお参考として、本年は期中に統計金額の報告社数が減じている。そこで2017年と2018年とで条件を同一にして比較した場合の前年比は100.3%となり、2013年から5年ぶりに前年を上回る結果となった)。そのうちブルーレイは821億7900万円で前年比98.8%と前年には及ばなかったものの、DVDビデオ

オは 597 億 6100 万円で前年比 101.1%と 2005 年以来、13 年ぶりに前年を上回った。

＜添付資料 表 5＞

販売用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、昨年は不調に終わった『音楽(邦楽)』が『安室奈美恵/namie amuro Final Tour 2018 ~Finally~』の効果もあり、同 148.5%と大きく伸長し、構成比 1 位 (43.1%) となり市場を牽引した。一方、昨年に『君の名は。』がリリースされた『日本のアニメーション (一般向け)』が前年比 75.8%と前年を大きく下回ったことが全体の前年割れに大きく影響した。また、構成比 3 位の『洋画 (TV ドラマを除く)』も前年比 86.1%と伸び悩んだ。昨年大きく伸長した、4 位『日本の TV ドラマ』は同 94.0%、5 位の『邦画 (TV ドラマを除く)』が同 77.9%、6 位の『芸能・趣味・教養』が同 77.3%と夫々前年を下回った。

各ジャンルの売上金額におけるブルーレイの割合は、『日本のアニメーション (一般向け)』が 80.7%、『洋画 (TV ドラマを除く)』が 76.4%、『邦画 (TV ドラマを除く)』が 50.8%、『音楽 (邦楽)』が 49.1%、『日本の TV ドラマ』も 48.7%となり、ほぼすべてのジャンルでブルーレイの比率が高まってきている。

＜添付資料 表 7＞

4. DVD ビデオの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 52.1%と過半を超えて 1 位となった『音楽 (邦楽)』が前年比 144.5%と前年を大きく上回ったが、2 位 (10.5%) の『日本のアニメーション (一般向け)』は前年比 65.2%と大幅に落ち込んだ。また、構成比 3 位 (6.3%) の『日本の TV ドラマ』も前年比 93.8%と伸び悩み、『邦画 (TV ドラマを除く)』も同 73.0%で 4 位 (5.8%)、『芸能・趣味・教養』も同 75.2%で 5 位 (5.8%) と前年を大幅に下回った。

＜添付資料 表 7＞

5. ブルーレイの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、『音楽 (邦楽)』が前年比 152.9%と大きく伸長し、構成比 1 位 (36.6%) となった。『日本のアニメーション (一般向け)』は構成比 2 位 (32.0) %だったが前年の高い実績と比べると 78.9%と大きく落ち込んだ。続く構成比 3 位 (13.2%) の『洋画 (TV ドラマを除く)』は前年比 87.8%、4 位 (4.4%) の『邦画 (TV ドラマを除く)』も同 83.4%と前年を大きく下回り、同位の『日本の TV ドラマ』も同 94.2%と昨年には届かず、『音楽 (邦楽)』以外の主要ジャンルはおおむね不調に終わった。

＜添付資料 表 7＞

6. レンタル店用全体 (DVD ビデオとブルーレイの合計) の売上金額は 349 億 400 万円で、前年比 81.8%と前年を大きく下回った。売上金額全体に占める DVD ビデオの割合は 90.4%で、315 億 5300 万円、前年比 80.8%だった。

＜添付資料 表 5＞

DVD ビデオのレンタル店用のジャンル別売上金額では、構成比 1 位 (18.8%) の『洋画 (TV ドラマを除く)』は同 88.8%、2 位 (17.5%) の『日本のアニメーション (一般向け)』が同 84.1%、続く『邦画 (TV ドラマを除く)』 (16.0%) が同 82.7%、昨年大きく

シェアを伸ばした『アジアの TV ドラマ』（15.1%）が同 67.0%と、『海外の TV ドラマ』（12.3%）が同 79.9%と、主だったジャンルが前年を下回るなか、『日本の TV ドラマ』（6.5%）は同 108.1%と前年を上回った。

ブルーレイのレンタル店用の売上金額は 33 億 5100 万円で前年比 91.5%だった。ジャンル別売上金額では、全体の 58.2%を占める『洋画 (TV ドラマを除く)』が前年比 94.2%、続く『邦画 (TV ドラマを除く)』（構成比 25.1%）は同 90.4%と主要ジャンルが伸び悩み、全体の前年割れに影響をした。

売上金額におけるブルーレイの割合が最も高いのは『洋画 (TV ドラマを除く)』で、売上金額の 24.8%を占めた。 <添付資料 表 8 >

7. 売上金額を売上数量で割って単純に求めた 1 枚当たりの単価を見てみると、DVD ビデオの販売用の平均単価が 3,687 円で前年比 108.4%となり、ブルーレイの販売用も 5,460 円で同 106.5%と上昇した。両フォーマットとも比較的に単価の高い、『音楽 (邦楽)』の単価が昨年に続き上昇している。

数年来減少傾向が続いている『レンタル店用』の平均単価は、昨年両フォーマット共に前年を上回ったが、DVD ビデオが 1,468 円で前年比 96.0%、ブルーレイ 1,684 円で同 96.3%と再び減少に転じた。 <添付資料 表 6 >

以 上

追記

<本統計調査報告についての注意点>

- 本報告は、JVA 会員社が発売、販売する自社作品および他社作品の出荷段階の売上をまとめた統計である。
- 返品分は金額、数量とも調査時点において差し引いている。
- DVD とブルーレイのコンボ作品はブルーレイにカウントしている。
- 「日本の子供向け(アニメーション)」などにある“子供向け”とは、目安として 9 歳以下の子供を対象とした作品のこと。
- ブルーレイの売上には Ultra HD ブルーレイの売上を含む。
- 「特殊ルート」とは、雑誌やコミック、食玩などとして他商品に付帯されるものの売上のこと。